



水橋荒町遺跡は、市街地から北東約10km、常願寺川右岸の河口付近に位置する。川に挟まれた扇状地の末端部にあたり、海にほど近く、標高は約2mを測る。

調査は、下水処理場建設に伴い、一九九一年から一九九三年まで実施した。

調査の結果、遺跡は縄文時代中期から近世の各時代にわたる大規模な複合遺跡であることが判明した。中でも主体となるのは奈良

富山・水橋荒町遺跡

みずはしあらまち

- 所在地 富山市水橋辻ヶ堂
- 調査期間 一九九二年(平4)四月~一月
- 発掘機関 富山市教育委員会
- 調査担当者 小林高範
- 遺跡の種類 集落跡・官衙跡か
- 遺跡の年代 縄文時代中期~近世
- 遺跡及び木簡出土遺構の概要

平安時代で、掘立柱建物、河川、井戸枠など検出遺構の多くは当該期に属する。掘立柱建物の配置に強い計画性が窺われる。

遺物は整理用コンテナ三五〇箱ほど出土した。須恵器・土師器・土錘・鋳型・羽口・瓦とともに、木柱・井戸枠など木製品の遺存状態も良好だった。墨書き器は数点あり、杯蓋の外側に「竈神」と記したもの以外は判読不能である。また、試掘調査の際に石製鎧帶が一点出土した。

木簡は、一九九二年の調査で一点出土したが、包含層中からであり、遺構には伴っていない。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「二斗八升□□右衛門」

122×20×2 051

貢納した品物(穀物か)の分量と人名が書かれた付札である。上部は平らに切断されており、先端は鋭く加工されている。書体などから中世から近世のものと推測される。

(小林高範)



0

5 cm